

第4学年道徳科学習指導案

令和4年12月14日(水)

第4学年2組 37名

授業者 近藤 夏彦

わくわく・どきどき・チャレンジ蔵前

目指す児童像

相手の話を聞いたり、友達との考えを比較したりし、学び合う子

1 主題名 大切な友達 B 友情、信頼

2 ねらいと教材名

(1) 本時のねらい

心を通じ合う赤おにと青おにの姿を通して、互いに理解し、友達と信頼、助け合おうとする心情を育てる。

(2) 教材名

「泣いた赤おに」(出典:かがやけみらい 小学校道徳4年 きつき・まなび 学校図書)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

児童にとって友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し合い、助け合い、信頼感や友情を育てていくことが大切である。4年生の児童は、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間を作って楽しもうとする傾向があり、集団での活動がこれまでになく盛んになる。学習においても友達との学び合いや助け合いの場面が増え、高学年に向けて人間関係のさらなる充実が期待される段階である。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。このことから、豊かな生活を育むための大切な存在として、信頼し合える友達関係づくりが求められる。そこで、友達とより深い友情を育むために、自分のことだけでなく友達の立場に立ち、互いに思い合い、助け合うことが大切であるということに気付かせ、よりよい友達関係づくりをしていくための意欲を育むことができるように本主題を設定した。

(2) 児童の実態

略

(3) 教材について

浜田廣介の名作である。友情、信頼の資料として扱われる代表的なもので、他学年にわたって扱われている。指導に当たっては、青おにに視点を当て、青おにの無償の愛に支えられた友情の温かさ、素晴らしさを考えさせたい。人間と仲良く暮らしたいという友の願いをかなえるために悪者役になった青おにの心は、その場限りではなく、一人旅に出る、という結末へと続く。自分が犠牲になってまで友達のために行動する青おにの心は決して軽いものではないことに気付かせたい。青おにの赤おにに対する深い友情に満ち溢れた気持ちを考えることを通して、相手の立場を考え、互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てていきたい。

4 研究主題に迫るための手立て

手立て① 友達と関わり合い学び合う学習活動の工夫

ア) 「話し合い活動」を活発にさせるための継続的な取り組み

今回の授業では、児童同士による「話し合い活動」を中心に道徳的価値を深めていくことをねらいとした。しかし、「話し合い」と「発表」は違うものであると考え。「ぼくは～と思います。」
「私は～と思います。」の繰り返しは、単なる発表であり、考えが深まっているとは言えない。そこで、4月から国語科での授業を中心として、他教科においても、意見を言うときには「～さんと同じで」「～さんと違って」など、常に相手の考えを受けて自分の意見を言うような指導を継続して行ってきた。特に道徳科の授業においては、ただ登場人物の気持ちを考えるだけでなく、自分の経験や、登場人物と自分を比較することで価値に対する考えを深めることができるように指導してきた。

イ) 個人で考える時間の設定

主発問に対する全員での議論を充実させるためには、まずは一人ひとりがしっかりと自分の考えをもっていないといけない。そのために、一人ひとりが自分の考えをワークシートに書く時間を設定する。ここでは、青おにの行動について、「自分だったら」「そんな行動をした青おにをどう思うか」「似たような経験」などを中心に考えさせていく。

ウ) わくわくタイム(2～3人で話し合う)の設定

ここでは、ワークシートに書いたことを基に、近くの友達数名で話し合いを行う。このことでその後の全体での話し合いに向け、伝えたい、という意欲や自信をもたせる。尚、このわくわくタイムでの話し合いは、ワークシートを読むのではなく、ワークシートに書いた考えを基に、お互いに青おにの言動について思ったことを自由に伝え合う(おしゃべり)ようにさせる。

エ) ドキドキタイム(全員での話し合い)の設定

わくわくタイムで、数人で話し合いを行った後、主発問に対して全員で話し合うドキドキタイムを行う。ここでは、相手意識をもった話し合い活動を通して、「自分だったら」「似たような体験」といった様々な観点からの意見を出させることで、多面的に道徳的価値に迫らせていく。

オ) 座席の工夫

児童同士による活発な話し合いを行わせるためには、自由に発言しやすい雰囲気をつくる必要がある。そこで、児童の机を全て廊下に出し、普段の休み時間に、児童同士が集まっておしゃべりをしているかのように、椅子だけで児童が集まって座るようにした。机の前に座り、挙手をし、教師の指名を待って発言するのでは、どうしても堅苦しい雰囲気となり、活発な話し合いが行われにくいと考えたからである。さらに、自由に発言しやすい雰囲気をつくるために、教師の指名を待たずに発言してよい、ということとしている。

手立て② 問いの工夫

ア) 青おにの言動を中心とした主発問の工夫 「方略の問い」

本教材における学習展開は、赤おにの気持ちを考えることを中心とする学習活動が通常であると考えられる。しかし、今回の授業では、青おにの言動を考えることを中心とした学習活動を展開することで、本教材のねらいに迫ることとした。理由は、以下の2つである。

- ①本教材「泣いた赤おに」のもつ文学的価値は、「自己犠牲の美」とであると捉えている。もちろん、4年生という発達段階の児童に、今回の授業を通して「自己犠牲の美」を考えさせるつもりはない。しかし、せつかく「泣いた赤おに」という作品を教材で扱う以上、この作品のもつ「自己犠牲の美」という文学的価値に少しでも触れさせたいという、授業者の願いがある。そのためには友達から優しくされた側の気持ちを考えるよりも、直接、自分が損をしても友達のために親切にする側の言動について考えた方が、この作品の価値に迫れるのではないかと考えたからである。
- ②この作品中で、赤おにの青おにへの感謝や友情の気持ちが感じられる場面は、赤おにが青おにの手紙を読んで涙を流す場面である。しかし、この場面での赤おにの心情を考えると、それは単に「友情や信頼」というものだけではなく、「後悔」や「罪悪感」などの様々な心情が入り乱れているのではないかと、授業者は捉えている。このような複雑な心情を、単に「友情・信頼」をねらいとした学習活動に結び付けることは難しいものであると考えたからである。

また、一つ一つの場面についての青おにの気持ちを問うのではなく、教材文全体を通して「あなたは、青おにの行動にどんなことを考えるか？」という発問をすることで、自分の経験や自分だったら、などの様々な観点から青おにの行動や気持ちについて話し合い、「友情・信頼」の価値についての考えを広げることができるようにする。

イ) 振り返りの工夫 「振り返りの問い」

振り返りのワークシートを書く際には、話し合う前と後で自分の考えがどのように変化したのか、または変わらないが深まったなどの、授業前と授業の変化を意識した観点で書かせる。そのことにより、価値に対する考えの深まりや気付きを児童が実感できるようにする。

手立て③ ICTの工夫

ア) 導入の工夫

事前に、児童に友達との関わりについてのアンケートを取り、その結果をポジショニング機能を活用して、学習展開の導入で児童に提示することとした。このことにより、本時の「友情」をテーマとした授業への興味・関心を高め、学習への意欲付けとしていく。

イ) 教材文提示の工夫

授業の導入で教師が教材文を読み聞かせる際に、視覚的に内容が理解できるようにした。児童の実態として、一度教師が読み聞かせをただけでは、その内容がなかなか理解できない児童も何人かいる。そこで、教材文の内容に合わせた「絵」や「吹き出し」を電子黒板に映すことで、視覚的に内容を理解しやすいようにする。

5 学習指導過程

	学 習 活 動	◎指導上の留意点 □評価
導 入	1、事前のアンケート結果「友達から優しくしてもらった経験はありますか。」を見る。	◎アンケート結果をポジショニング機能で提示し、「友達との関わり方」を自分事として捉えさせることで、授業への意欲を高めさせる。
展 開	主発問「青おにの行動にどんなことを考えますか」	
	2、教材文「泣いた赤おに」の教師の範読を聞く。 3、赤おにと青おにの行動を確認する。 ①赤おにの境遇について ・人間と仲良くなりたいが、「おに」というだけで怖がられている。 ②赤おにのために取った青おにの行動について ・青おにが村を襲い、赤おにに青おにをやっつけさせる ・赤おにに、ぼかぼか殴らせる。 ・赤おにのために、手紙を残し、遠くに旅に出る。 4、主発問に対しての自分の考えをワークシートに書く。 5、わくわくタイム（2～3人で話し合う） 6、どきどきタイム（全員で話し合う） ○青おにはすごい・やさしい ・赤おにのために、自分が犠牲になるなんて・・・。 ・赤おにのためとはいえ、そこまでやらなくてよい。 ○自分が青おにだったら、ここまでできない ・自分を殴れ、なんて言えない。 ・赤おにのために旅に出るなんてできない。 ○似たような経験 ・友達に○○してもらった。 ・友達に○○してあげた。 ・その時は、こんな気持ちだった。 ○今後、お友達との間で、どんなことが大切なのだろうか ・相手の気持ちになって考える 7、振り返りをワークシートに記入し、発表する。	◎電子黒板で「絵」や「吹き出し」を中心とした教材提示をすることで、配慮が必要な児童にも、内容の理解をしやすくし、教材への関心を高める。 ◎一つ一つの場面での登場人物の気持ちを問うのではなく、 ①人間と仲良くなりたいのに、怖がられている赤おに ↓ ②自分が辛い思いをしても、赤おにのために行動する青おにという、赤おにのために取った青おにの行動を簡単に整理し、教材文の内容を把握させる。 ◎ワークシートには、自分の経験や自分だったら、といった観点で書かせる。 ◎ワークシートを読むのではなく、書いたことを基に、自由に話し合わせる。 ◎友達の意見を受けて自分の考えを発言することを通して、議論が深まるようにする。 ◎話し合いを通して考えたことを中心に記入させる。 ◎今後、友達に対しどのように接していくかを記入させる。 □互いに信頼し、友達と理解し合おうとする気持ちを高めている。
終 末	8、教師の説話を聞く。	

「泣いた赤おに」

〈大切な友達〉

赤おに

- ・人間と仲良くなりたい。
- ・「おに」ということな、こわがられている。

青おに

- 赤おにのために
- ・村をおそう
- ・赤おにがやつつける↓「もつとなぐって」
- ・赤おにのために旅に出る。

青おにの手紙

青おにの行動に、どんなことを考えますか？

- ・青おにはすごい、優しい
- ・自分が青おにだったら、そこまではできない
- ・友達に〜してもらった
- ・友達に〜してあげた
- ・これからは、友達の気持ちを考えて行動したい